

聖地のこどもニュース

# オリーブの木

No. 74

2019年 11月



美しいゆかた姿で勢揃い (信州善光寺境内にて)

数日前もガザからイスラエル領土内にロケット攻撃があり、イスラエル軍の反撃があって犠牲者が出ました。また何人ものパレスチナ人が、攻撃のそぶりが見えたとして、その場で射殺されています。他にも分離の壁や検問所、入植地の問題などなど……。常態化してニュースにならないければ、私たちは何も知らず、関心の持ちようがありません。

今年も行われた「平和の架け橋プロジェクト」。「安全で自由な!？」日本で、若者たちは心にしまい込んだ思いを打ち明け、また相手の立場に立って紛争を考えました。共同生活や、異文化体験、さらにワークショップで彼らが確信したこと。それは、多様性を受け入れ互いに尊敬を持つことが「平和共存への一歩だ」ということです。プロジェクトは「小さな種蒔き」。彼らの心に小さな種がいつか芽を出し、大きく育つことを願いつつ。

皆さまのご支援に感謝申し上げます。

理事長 井上 弘子



認定NPO法人

聖地のこどもを支える会



当NPOは、国際協力NGOセンター(JANIC)によるアカウンタビリティ・セルフチェックを受け、基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について適正に運営されていると審査されました。

事務局 〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-7-502 Email [ispalejpn@gmail.com](mailto:ispalejpn@gmail.com) TEL/FAX 03-6908-6571

ご支援は… 郵便振替 00180-4-88173 加入者名 「NPO法人 聖地のこどもを支える会」

当法人へのご寄付は、税制優遇が受けられます。

<http://seichi-no-kodomo.org>

# ヤクーブ・ガザウィ オルガンコンサート 2019

8月と9月に4回にわたって、エルサレム・聖墳墓教会首席オルガニスト ヤクーブ・ガザウィのオルガンコンサートを行いました。会場は、仙台・元寺小路教会、横浜・指路教会（日本基督教団）、東京・聖オルバン教会（聖公会）、および聖イグナチオ教会でした。4箇所とも予想を超える数の皆さまにお出でいただきました。奏者、スタッフ共々、各教会でも親切にいただき感謝しています。

曲目は、有名なバッハのトッカータとフーガを初め、バロックから現代まで、そしてアラブ・メロディーによる即興曲もあり、幅広いレパートリーでした。特に現代作曲家メシアンの「イエスの受難」を表現した曲は、聴衆の方々の心を掴んだのではないのでしょうか。紛争の国に生まれ育ち、今も厳しい現実を生きている若きオルガニストが平和を願いつつ奏するパイプオルガンの音に、お出でくださった皆



演奏を終えて、喝采にこたえるヤクーブ・ガザウィ（仙台カテドラル・元寺小路教会にて）

様から、大きな反響をいただきました。

来年もコンサートを企画しています。首都圏ばかりでなく、大阪、広島、松山、長崎などでの開催を検討しております。どうぞお楽しみに。そして皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

## イスラエル政局、再選挙後も組閣の見通し混沌

村上 宏一（当法人理事・元朝日新聞中東アフリカ総局長）

イスラエルでは年内に2回目の総選挙という異例の事態となり、9月17日に投票されました。結果は、国会に議席を得た政党の議席配分が選挙前と大して代わり映えせず、またも連立工作が困難な状況が続くことになりました。リブリン大統領は4月の選挙後と同じように、現首相のネタニヤフ氏に組閣を指示したものの、国会の過半数の議席を確保する連立政権を作ることができず、大統領は次に、最多議席を得た中道統一会派の青と白の代表ガンツ氏に組閣を指示しました。しかし、多数派工作はさらに困難とみられ、期限の4週間以内（11月下旬）に成果を出せる見通しは、今のところ立っていません。

### ■連立を阻む構図は変わらず

まず、選挙の結果どの政党が何議席得たのか見てみましょう。

大統領が初めに組閣を指示したネタニヤフ氏が党首のリクードは32、同氏を首相候補に推す政党

は、右派連合が7、宗教政党のシャスは9、ユダヤ教連合は7で合計55議席。

1年前にネタニヤフ内閣を離れ、4月の選挙後も連立に加わるのを拒否して再選挙の原因ともなったイスラエル我が家は8議席を獲得しました。

一方、汚職疑惑を抱えるネタニヤフ氏を批判し退陣を迫って4月の選挙前に結成された青と白は、最多の33議席を得ましたが、4月の選挙で得た35議席からは後退しました。左派系の労働党は6議席、左派メレツが核となる民主同盟は5議席で、パレスチナ和平交渉を支持する政党の合計は44議席にとどまりました。

アラブ政党は、アラブ統一会派を結成して13議席を獲得。これには、選挙戦中にネタニヤフ氏が反アラブ感情を煽る弁舌を繰り返したことが逆効果をもたらした、とされています。反発したイスラエル国籍のアラブ人有権者の投票率が10%余り上昇し、61%に上がったということです。

それはともかく、多数派内閣をつくるには国会の全120議席の過半数である61議席以上を必要としますが、前述の通り、ネタニヤフ氏の下で内閣に加わっていいとする政党の合計議席数は55で過半数に及びません。去年まではネタニヤフ政権にいたイスラエル我が家を取り込めば63議席を確保できます。しかし前号で書きましたように、イスラエル我が家のリーベルマン党首は超正統派ユダヤ教徒（注）の徴兵免除を制限すべきだという主張を譲りません。宗教政党の方も、そんな主張を受け入れるはずもなく、双方の支持が必要なネタニヤフ氏は打開策を見いだせないまま、再選挙に打って出たというのが4月の選挙後の経緯でした。この構図は再選挙後も変わっていないため、多数派工作が挫折したわけです。

（注）超正統派ユダヤ教徒：ユダヤ教の戒律を厳格に守る宗教派ユダヤ人のことで、神学校で学ぶ超正統派の学生たちは兵役を免除されてきました。

## ■和平派政権はなおさら困難

4週間という組閣期限内に連立工作が結果を出せない、大統領はほかの首相候補に組閣を指示することになっており、最大会派の青と白の代表であるガンツ元軍参謀総長にお鉢が回ってきました。4月の選挙の後、ネタニヤフ氏はリクードと同じ35議席で最大会派を分け合った青と白に組閣要請が回るのを嫌って国会の解散、再選挙という手段に訴えたのでした。今回、大統領は3度目の選挙にはならないようにとくぎを刺しています。

ではガンツ氏に組閣の可能性はあるのでしょうか。ネタニヤフ政権を支持する右派・宗教政党を除く中道・左派系の青と白、労働党、民主同盟の合計議席は、前述の通り44議席に過ぎません。

8議席を有するイスラエル我が家と組めば計52議席となり、過去一度も政権に参加したことのないアラブ政党が閣外協力するならば、多数派を形成することも可能です。しかし、超正統派ユダヤ教徒の徴兵問題では同調できても、イスラエル我が家は対パレスチナ強硬派であるだけでなく、イスラエル国内のアラブ人に対しても、ユダヤ人国家とは相いれ

ないとして人種差別的な見解を公にするため、この組み合わせは極めて難しいといえます。

## ■各党・各会派の特徴は？

イスラエル我が家の性格に触れたところで、ほかの各党・会派の成り立ち、主張などを確認しておきましょう。

**<リクード>** イスラエルの建国以来、社会主義的な理念で国を引っ張ってきた労働党主体の政権に対し、自由主義経済を主張して1973年にできた右派政党。どちらかというアシュケナジームと呼ばれる中・東欧起源のユダヤ人が中心の支配層に対する、スファラディームと呼ばれるスペインや北アフリカ起源、あるいは中東出身のユダヤ人の反発を吸収する面もありました。また、治安に重点を置く主張が、自治合意後にパレスチナ人による自爆テロが多発したことで支持につながり、世論の右傾化の中で一定の支持を保っています。

**<右派連合>** ユダヤの家という、宗教色が強くパレスチナとの二国家共存を否定する政党が核となり、4月の選挙前に反アラブの極右政党が合流して右派連合を名乗るようになったものです。

**<シャス>** スファラディームの宗教政党として1984年に発足。差別的待遇を受けてきたと意識するスファラディームの権益代表という側面が強く、支持者は超正統派のユダヤ教徒ばかりではありません。対パレスチナで柔軟な姿勢をとったこともあり、労働党政権からリクード政権にかかわらず入閣してきましたが、今ではヨルダン川西岸のイスラエル人入植地を擁護するなど強硬姿勢で、ネタニヤフ首相の右派政権を支えてきました。

**<ユダヤ教連合>** イスラエル建国以前から活動していた超正統派の宗教政党アグダット・イスラエルが前身。同党は労働党政権が国会の多数派確保に必要な組閣要員として連立内閣に参加し続け、安息日には商店の営業や車の運転を禁じるなどイスラエル社会の宗教的な特例を認めさせてきました。1992年に分派の宗教政党ができましたが、議席確保のために連合して選挙に臨んでいます。関心は宗



教のみといってよく、和平問題では目立った発言はありません。

**<青と白>** ガンツ氏が4月の選挙前に立ち上げた新党と、それまで2ケタの議席を有していた中道政党イエシュ・アティッドが提携した会派。「ネタニヤフ首相は国に分断をもたらした」として政権交代の必要性を強調し、対パレスチナでは軍人の立場から、武力では平和を確保できないとして和平交渉の復活を主張しています。

**<労働党>** 前述の通り、社会主義的理念を掲げて国政の中心を担い、パレスチナ和平交渉を進めようとしてきましたが、今では一けた台の議席がやっととなっています。9月の選挙前に右派・イスラエル我が家の元メンバーが作った政党ゲシエルと提携して党内から不満の声があがっています。

**<民主連合>** 左派メレツと、バラク元首相（労働党）が6月に作ったばかりの中道左派・民主イスラエル、それと環境派政党・緑の運動が連携して9月の選挙前に結成。右派政権には加わらないこと、パレスチナ問題では二国家共存による和平を主張しています。

**<アラブ統一会派>** アラブ民族主義、共産主義、イスラム主義など多様な主張のアラブ政党が、選挙で票の分散を防ぐために統合。入閣したことはなく、首相候補を推すことも滅多にありませんが、今回は「ネタニヤフ首相を退陣させるために」と、ガンツ氏支持を表明しました。

## ■「呉越同舟」の大連立案も

大統領は当初、青と白・リクードの大連立を両者に諮りましたが、青と白のガンツ氏は汚職疑惑のネタニヤフ氏とは組まないとして拒否したため、ネタニヤフ氏に組閣を指示。その失敗を受けて連立工作をするようになったガンツ氏は、少数派内閣は避けたいので結局、呉越同舟ともいえるリクードとの連携を探っていると伝えられています。ところが右派・宗教連合の4党は、リクードを連立交渉の代表に立て、個別に連立に加わることはないとしています。青と白としては、4党の波に飲み込まれては意味がありません。

一方、イスラエル我が家のリーベルマン氏は、青と白、リクードが組む大連立内閣になら加わると述べました。三者を合わせると73議席で安定多数に達し、犬猿の仲のイスラエル我が家と宗教政党が同居せずすみません。しかし、これも右派・宗教連合が結束する限り実現は無理でしょう。どの政党の組み合わせが可能か、どう考えても多数派内閣を作るのは至難の業とできてきます。

汚職疑惑のネタニヤフ氏が起訴されたらどうなるか、という問題も変動要因です。再々選挙をどうしても避けたいという当事者たちの思惑が行き着くところには、あり得ないはずの組み合わせができるのかもしれない。ただ残念なことに、パレスチナ和平交渉推進の旗を高く掲げる政権を作る連立の組み合わせは、できそうにありません。

## 認定NPO法人聖地のこどもを支える会の 会員になりませんか？

さまざまなプロジェクトをはじめ、教育支援事業など、当会の活動を総合的に支えていただく会員制度。あなたのご意見が、平和のつくり手を育てます。事務局までお気軽にお申し出ください。

|        |               |
|--------|---------------|
| 正会員 個人 | 年額 12,000円／1口 |
| 学生     | 年額 6,000円／1口  |
| サポート会員 | 年額 6,000円／1口  |

正会員は、当法人の総会等での議決権を行使することができます。

## 支援金の自動払込みサービス

ご好評を頂いている自動払込みサービス。まだの方はぜひご利用ください。

- \* 毎回 郵便局へ払込みに行く手間が省けます。
- \* いつからでも、いくらからでも 簡単に始められます！

お申込み・お問合せは

当法人事務局 **03-6908-6571**

または **042-636-9218** (中山)

# イスラエル・パレスチナを訪問すべき4つの理由

みずの まりん  
水野 真鈴（国際協力機構（JICA）パレスチナ事務所駐在）

パレスチナで仕事をしているという、よく周りから「危くないの?」と心配されます。自分自身もこちらに来る前はそう思っていたのですが、こちらにきて1年、イスラエルにもパレスチナにも、沢山の魅力があることが分かってきました。当地で味わって感じたことを、紹介させていただきたいと思っています。

## 1. 様々な自然

イスラエル・パレスチナは、両方合わせても九州より小さい国土ですが、東西南北で非常に異なった自然を楽しむことができます。北に行けば、ガリラヤ湖周辺の、水と緑が溢れ、渡り鳥や野生動物が観察できる自然公園があり、春の季節には自然の喜びを感じることができます。東に行けば、世界最古の都市と言われるジェリコで乾いた熱風を感じ、海拔マイナス400メートルの死海で泥パックを塗り、およそ2000年前にユダヤ人がローマ帝国に滅ぼされた際に最後まで立てこもった、天然の要塞マサダ国立公園に登ることができます。南には、河川の浸食によって形成された広大なクレーターやネゲブ砂漠など荒々しい大地が広がっており、そしてそこを走り抜けてエイラートまで到達すると、世界一美しい海とも言われる紅海でダイビングができます。西には地中海に臨むビーチがどこまでも広がっています。

このように、小さい国土ながら、山、海（死海）、砂漠のすべてを満喫できます。また、東西南北のどこに行くにも、中央に位置するエルサレムから車で数時間の距離というのが嬉しいところです。



ベールシェバ 羊の群れ

## 2. 一度の訪問、二つの体験

エルサレムの街を歩き、西エルサレムと東エルサレムを分ける国道60号線を渡ると、道一本隔ただけで風景が一変してしまうことに驚きます（言語までも!）。西エルサレムの繁華街はさながらヨーロッパのような洗練された雰囲気を持ちつつ、ユダヤ教超正統派の人々もちらほら。一方東エルサレム側ではアラブらしい喧噪で、日々がやがやしています。ラマッラやベツレヘムなど近郊のパレスチナ自治区を訪問すれば、壁や検問所で区切られているイスラエルとパレスチナの境界線を行き来することになり、街並みも、文化も経済レベルも、メンタリティも違う世界を体験することができます。

## 3. 食事

アラブ料理は本当においしい。パレスチナもイスラエルも、それぞれの宗教上の理由で豚肉を食べませんが、鶏肉や羊肉がおいしいので不足を感じません。調味料も多種多彩ですし、ひよこ豆をペーストにして食べるフムスや、レンズ豆のスープなど、豆を使った料理も豊富。ジェリコの八百屋さんで買ってくる野菜やオレンジは、値段は安く、しかも質は最高、日本で野菜を買うのがためらわれるほどです。

## 4. 世界の出来事について考える

そして最後に、世界中で起きている問題について、じっくり考える契機になります。大げさでなく、宗教とは、平和とは、民族とは…ということ、地球レベルで考える契機になります。

エルサレムの旧市街には三大一神教（キリスト教、ユダヤ教、イスラム教）の聖地が存在しており、それぞれの聖地を巡礼する人がそれぞれの聖地で神に祈りを捧げています。聖墳墓教会でイエスの亡骸が置かれた場所でひざまずくキリスト教の方々、嘆きの壁に向かってこうべを垂れるユダヤ教の方々、岩のドームに祈りをささげるムスリムの方々。平和や静けさを感じられるパレスチナやイスラエル

の田舎町と、暴力の連鎖が止まらず緊張している一部地域との比較。水と油のように相容れないアラブ人とユダヤ人が共存するエルサレム。ユダヤ人迫害の展示が延々と続くホロコースト博物館。近隣諸国や超大国の利害を巡り、刻一刻と変化する政治情勢。平和とは、人類とは、宗教とは…解決はあるのだろうか…考えこまずにはいられません。



ベツレヘムの検問所 パレスチナ人は荷物検査、身分証明など複数回のチェックを受けてようやく通ることができる。2時間以上かかることも。

## スタディ・ツアーから留学に

佐田 さつき（ハイファ大学 イスラム学アラビア語学部 1年生）

私が初めて中東を訪れたのは、2017年春のスタディ・ツアーでした。現在は、イスラエル北部のハイファ大学で中東・イスラム学アラビア語学部の1年生です。

もともと高校を卒業したら海外に正規留学することを決めていて、マルタの大学でアラビア語や中東の歴史を専攻するつもりでした。ツアーの時は入学時期を待つみの段階でしたが、このスタディ・ツアーに参加して、そのプランを白紙に戻しました。

高校2年の時にニュースでイスラム過激派武装組織ISの活動やシリア難民のことを知って気になっていました。その後自分なりに勉強して中東やイスラム教に関心を持ち始めました。しかしツアー参加前はイスラエル・パレスチナ問題に関する知識はほぼゼロに近い状態でした。「領土問題があるのだろう」くらいのレベル。歴史を調べてみても複雑すぎてよく分からず、諦めた記憶があります。

ツアーに参加したのも、たまたまネットの広告で見つけて、イスラエル・パレスチナには詳しくないけど、「難民キャンプがどんなものか見たい!」「留学先で中東について勉強するのだから、その前に見に行っておきたい」という軽い気持ちからでした。

しかし、帰国後すぐに、中東のことは中東で勉強したいと思い始めました。ツアー前に勉強したこと・本で読んだこと・人から聞いたことと、実際に現地で見えて感じたものでは、インパクトが全く違いまし

た。事前研修でイスラエルがパレスチナに課す数々の規制、それによるパレスチナ人の苦勞について聞きました。それを現地で目の当たりにすると、言葉にならないほどの恐怖がありました。あの巨大な分離壁を挟んで、一方はハイテク先進国、他方は明日生きられるかも分からない人々が暮らしている。ユダヤ人はいつでも「嘆きの壁」に祈りに行くことができるのに、グリーンカードを持つパレスチナ人は「岩のドーム」に自由に行くことができません。

何よりツアー中に感じたことは、この問題に対するイスラエル側とパレスチナ側の意識の差です。このツアーの活動に参加したイスラエル人とパレスチナ人は少なくとも両国の平和に関心がある人です。しかし、他の多くの一般人はどう考えているのか、とても不思議に思いました。

スタディ・ツアーのあと、私はイスラエルに留学しようと思ったのですが、それは、現地の人々とともに生活することによって、この紛争の問題を外部からではなく、内側からの視点で見たいと思ったからです。短期間の滞在でほんの30分だけインタビューするのと、半年くらい長く一緒にいた人にインタビューするのでは伝わってくるものが全く違います。留学中、たまたま政治の話になって、いつもはとても穏やかで優しいイスラエル人の友だちが、パレスチナとの政治問題になると途端に顔色が変わって急に怖くなる、なんてことがよくありました。



もしその人のことを全く知らないで、インタビューした場合、「この人は怒りっぽい人なのかもしれない」という誤解が生まれるかも知れません。ツアーの段階では、「イスラエルのやっていることは非人道的だ!」と思っていましたが、大学でユダヤ民族について勉強したり、ホロコースト生存者との交流会に参加して話を聞いたりすると、ユダヤ人にとってこの国がどれほど大切なのか、この国を絶対に守っていくという決意がどれほど強いのか、痛感します。

留学1年目に、2歳と5歳になる女の子がいるユダヤ人家庭にホストファミリーとしてお世話になりました。2年目の今でも月に数回遊びに行く仲です。その家族の父親の親友が2002年にパレスチナ人の銃弾を浴びて亡くなったそうです。もし彼が生きていたら、自分の娘と同じくらいの歳の子がいただろう、と以前話していました。それでも、パレスチナ人を憎んだことは1回もないそうです。とてもフレンドリーでアラブ人の友だちが多い彼は、「イスラエル人、パレスチナ人なんてない、みんな一緒」と言います。彼の奥さん（私にとっては母親のような人）はアラブ人が通う学校でヘブライ語を教えています。

イスラエル国内にもアラブ人は多く住んでいて、特に私の通うハイファ大学では、よく耳にするのはヘブライ語よりもアラビア語です。しかし、彼らが授業中に隣同士で座ることはありません。教室の中でさえ、ユダヤ人エリアとアラブ人エリアで別れているのです。もちろん日本の学校でも体育会系と文化系で別れますが、あんなにも綺麗に左右または前後で二つに別れているのは無意識的にお互いが関わらないようにしているのかと思う節があります。

またこれは、紛争云々ではなく、ユダヤ人の比較のしっかりしているところ（時間厳守や規則を守ること）に対して、アラブ人の雑なところや秩序のないところが分かり合えないのだと思いました。以前海岸に行った時に、スピーカーで音楽を流すのは禁止で、放送でそれを注意されているにもかかわらず、音楽を止めないアラブ人、さらに禁煙エリアでの喫煙。一緒に来ていた私の友だちが「アラブ人はルールを守れない」とぼやいていました。確かに授業



紛争や政治の混乱をよそに、スーク（市場）はいつもにぎわっている。（エルサレム）

中にトラブルを起こすのはいつもアラブ系。日本人の立場として考えて見たときに、仮に日本の人口の20%が外国人だとしたら、不満を持つ日本人は多くいると思います。（現に、観光地ではマナーやポイ捨て問題があります。）

スタディ・ツアー前に外から見ていたこのイスラエル・パレスチナ問題は、内側から視点を変えることで、見えてくるものが全然違います。外から問題を見た場合、自分たちの常識から考えてしまいがちで、その常識は問題が起こっている場所では通用しないことがあります。留学をして、現地の人と2年間生活したことで、当事者について内側から知って理解することがどれほど大切かを改めて学びました。

## 遺贈・相続寄付をご検討の方へ

あなたの財産、そして大切な方からの遺産をイスラエル・パレスチナの子もたちの教育支援に役立てませんか？

当法人では遺産・相続財産のご寄付も、ありがたく頂戴しております。将来、平和の担い手となるイスラエル・パレスチナの子もたちの教育支援や国際交流事業などの活動に使わせていただきます。

**聖地のこどもを支える会は、認定NPO法人です。**

**ご遺族が相続財産からご寄付くださった場合、  
税制優遇の対象となります。**

遺贈・相続財産の寄付に関心のお持ちの方は、  
当法人事務局までお問い合わせください。

TEL.03-3908-6571

## 「平和の架け橋」プロジェクト 2019 から

## ↓長野での国際交流イベントの一コマ



「核兵器廃絶」のための折り鶴レイを配る「仙台平和七夕」に参加。  
(仙台七夕祭りにて)



被災者のために、「花は咲く」を日本語、ヘブライ語、アラビア語、英語で歌う（仙台での国際交流イベントにて）



被災地フィールド・トリップの途中、福島（太平洋）の海をバックに。



3ヶ国の青年と2人の少年がそうらん節を力いっぱい踊る。



ハンドベル・アンサンブルNAGANOと楽しい一時。



プロジェクト日本人参加者によるプレゼンテーション「イスラエルとパレスチナ」。



善光寺早朝の祈り「お朝事」に参加したあと。

## ラマラの街で出会った子どもたち



子どものためのシネマの日。  
仲よしお姉ちゃんと一緒に。



ファミリー・デーで綱引きの準備。



自転車大会に集まった少年たち。真新しい自転車で大得意。